

新潟空港の着陸帯及び排水施設の改良による滞水・冠水被害の防止

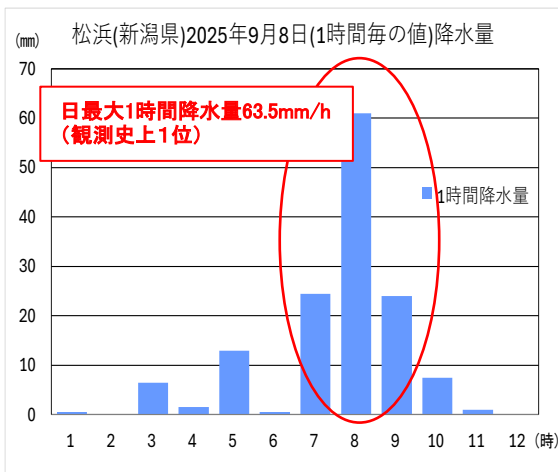
概要：令和7年9月8日に新潟市で1時間雨量63.5mm/h(観測史上1位)の大雨を記録したが、新潟空港では排水施設の改良等により滞水・冠水被害が生じず、航空機の通常運行や空港利用者の安全を確保した。

対策名：64-1 空港の耐災害性強化対策(護岸嵩上げ・排水機能強化による浸水対策) <5か年加速化対策>【国土交通省】

- 実施主体：国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所
- 実施場所：新潟県新潟市
- 事業概要：近年の気象の変化や長期的な気候変動による豪雨等の激甚化・頻発化を踏まえ、新潟空港における排水処理能力不足による滞水や冠水等を防ぎ、航空機の運航や空港利用者の安全性を確保するため、着陸帯及び排水施設の改良を実施した。
- 事業費：13億円(平成28年～令和6年度)
- 災害の外力、被害と効果：**令和7年9月8日に新潟市松浜観測所(新潟空港内)で日最大1時間降水量63.5mm/h(観測史上1位)を記録した。しかし、新潟空港では排水施設の改良により航空機の運航に影響を及ぼす滞水や冠水等の被害が生じなかったため、通常の運航を継続した。**

護岸の嵩上げや排水機能の強化等の浸水対策により、高潮・高波・豪雨等による空港施設への浸水の防止が可能となる空港の割合(対象23空港)

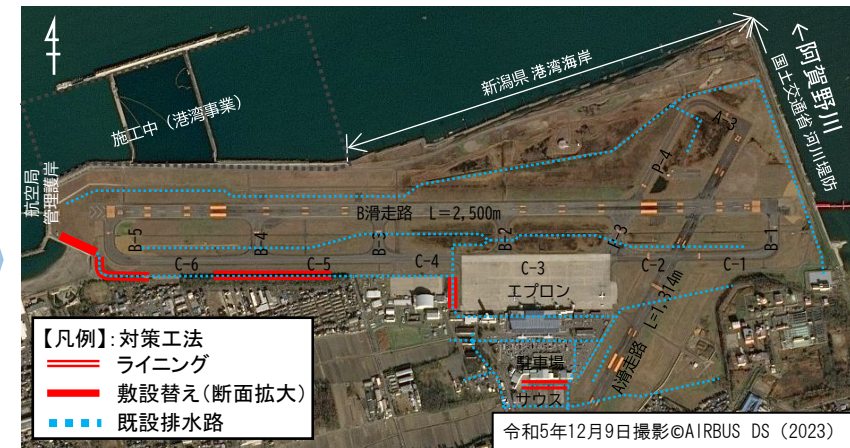
R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
35%	39%	39%	48%



日最大1時間降水量の観測史上1位を更新するなど、豪雨等が激甚化・頻発化



空港における豪雨による冠水被害事例(平成21年7月 福岡空港)



空港の着陸帯及び排水施設の改良を実施

